

○ 子どもの発達とワークシートについて

ワークシートの作成に当たっては、第一義的に学習指導要領に即した、その学年の指導のねらいが反映されていなければならないことは当然のことである。

しかし、単にそれだけでは指導のねらいを達成するのは困難である。巨視的にはその学年の発達段階を考慮していること、微視的にはその学級の学習段階や、1つの学級には様々な発達段階の子が混在していることを考慮したものでなくては、学級内の全員の子が学習に参加できるようなワークシートになりえないのである。

子どもの発達とワークシートについての一考察

	低学年	中学年	高学年
	具体思考の時期	具体的思考から抽象的思考への移行期	初期の抽象的思考の時期
	<p>基本的には、小学校段階は、1年から6年まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 抽象的な言語を獲得したり、 ◇ 抽象的な位置関係を理解したりして、 <ul style="list-style-type: none"> ・数量関係 ・上位概念と下位概念など言語の関係 ・段落相互の関係 ・方位の関係 <p>抽象的思考を獲得させるための時期である。</p>		
	<p>低学年は、 具体物の観察 具体物の操作 具体的な位置関係 など、具体的な思考を通して 抽象的なものの見方へと刺激 を与える時期である。</p>	<p>中学年は、抽象化への誘いを より意識的に行わなければなら ない時期であり、具象の世界 と抽象の世界を行き来する ような学習内容を組み立てた い。</p>	<p>高学年は、抽象的思考を中心 にして、知識やものの見方・ 考え方を獲得させる時期であ る。具体物の観察を通して物 事の本質を把握したり、抽象 化された世界を認識させた い。</p>
ワークシート	<p>具体的な場面設定 挿し絵の活用 吹き出しの活用</p>	<p>具体的な場面設定 抽象的な関係図 上の2つの効果的な使い分け</p>	<p>抽象的な関係図 補助的に挿し絵・吹き出しなど活用する</p>
言語	<p>具体物や目に見える動きや様子を 表す語を拡充する 上位概念と下位概念</p>	<p>下位概念から上位概念へ（抽象化） 上位概念から下位概念へ（具象化）</p>	<p>抽象用語（愛・勇気・希望など）の理解 抽象用語から具体場面を想像する 具体場面を一言で表す（抽象化）</p>

② 「複式授業として効果的な指導法の開発」について

本校の前半・後半型の国語科学習指導過程は、指導者も子ども達も確実に身につけてきている。この学習指導過程を支えるためには、

- ・指導者は、教材研究と一時間の授業に対する確かな見通しを持つこと
- ・子供も学習の手順を理解すると共に、子どもの学習係を中心とした授業展開が出来る。

という2点が大切になってくる。

本校は、指導者も学習者である子どもも学習の手順について共通認識する段階に達しており、一応学習係と指導者と協力して授業を展開することが出来る。しかし、学習係の訓練という点では、進んだ点もあるが、不十分な点もあり今後さらに研究が必要である。

国 語 科 複 式 学 習 指 導 過 程

五西月小学校

- ◇ 指導目標が明確であること
 - ・教材の特質に応じつつ、その学年にふさわしい学力形成をねらったものであること
 - ・単元全体の指導を通した、一貫した指導のねらい（身につけさせたい学力）であること
- ◇ 課題解決のためのひとり学習の手立てが十分なされていること
 - ・ワークシートの活用など
 - ・日頃からの学習手順の訓練
- ◇ 深めたり広げたりするための発問が用意されていること

(前半・後半型)

A 学 年		B 学 年		備 考	
学習過程	学 習 活 動	直 間	学 習 活 動	学習過程	
つかむ	①課題をつかむ	直接 指導	(前時の課題の確認) ③発表し話し合う (深める発問をする)	深める・ 広げる	◇ 課題…子どものめあて 目標…指導のめあて ◇ 間接学習中、一人で考える段階ではワークシートなど一人学習が出来る手立ての工夫が必要 ◇ 間接指導で学習したことを直接指導に生かす ◇ 深める発問…子どものめあてから指導のねらいへと発展させる発問
考える	②一人で考える		④まとめる		
深める・ 広げる	③発表し話し合う (深める発問をする)	直接 指導	①課題をつかむ	つかむ	
まとめる	④まとめる		②一人で考える	考える	